



## プロサバナ計画に関する Justiça AmbientalおよびFOE モザンビークの立場

プロサバナは、プロデセール（PRODECER）、すなわち1970年代以降にブラジルのセラードにおいて行われた日本ブラジル農業開発計画に着想を得たものである。ブラジル、日本、モザンビークの各国政府によって成功例として引き合いに出されるプロデセールは、外国人（訳者注：ヨーロッパ系や日系移民とその子孫）に対する土地の分配と所有を促進し、その結果、ブラジルは海外において不当な手段で土地を奪う行為の熱心な促進者となった。

6500万人のブラジル人が食料危機に直面し、数百万人の人々が生存手段を保障する食料生産のために土地へのアクセスを求めるブラジルにおいて失敗した農業開発モデルを、ブラジルはプロサバナを通じてモザンビークに輸出しようとしている。この経験は、農民の生活森林、そして同国の生態系に及ぼしたインパクトと比較するとき、ブラジルのモデルにおける利益が無意味であることを示している。

プロサバナ計画は、「緑」という洗練された言葉によって巧みに装飾され、モザンビーク人および国際社会に「持続可能な農業開発」計画として提示されたが、同時にもたらされるであろう社会的かつ環境的インパクトの可能性は完全に除外された。しかしながら、この規模の開発計画は、共同体の再移転が必要となることが予測されるが、当事者である共同体がその事態について僅かにあるいは何も知らないことが懸念される。本件は、農民や現地の共同体を包摂することなく極めて高い次元で立案・決定されたものである。

日本は、プロサバナを通じて国外における安価な農産品の新たな供給源を確保しようとしている。その最終目的は日本や中国といったアジア市場への輸出である。ブラジルは、プロサバナを関連生産者および起業の拡大、技術協力、そして格好の投資対象と見なしている。

そしてモザンビークにとっての利益は何であろうか。

本件の推進者たちにとって根本的な問題は、ナカラ回廊のほぼすべての土地が農民によって占有されているということである。同地域は国内でも最も人口が密集する地域である。つまりは肥沃な土地と十分な降雨が数百万人の農民が働き、豊富な食料を生産することを可能にしているのである。ナカラ回廊は同地域の穀倉地帯として知られ、北部諸州の住民らに食料を供給し、数百万世帯の生存を可能にしている。

プロサバナの正当化と意図は、土地の接収を促進し、その土地に依存する数百万の現地の農民を搾取することにある。プロサバナは、市民社会組織、なかでも全国農民連合（**União Nacional de Camponeses: UNAC**）によって既に議論され、否認された。**UNAC** は1987年に設立された小農部門の農民による運動であり、モザンビーク政府によってパートナーとして認識され、農民にとっては全国レベルで自らの利害を代表する団体として認識されている。この25年間、**UNAC** は土地と自然資源に対する農民の権利や、農業分野における公共政策をめぐる議論において農民組織の強化に必要な不可欠な役割を果たしてきた。86,000名以上の個人会員、2,200の協会および共

**Justiça Ambiental**

Rua de Marconi Nº 110, 1º andar- Maputo

Telfax. (+258) 21496668; Cell: 84 7151300 / 82 3061275; Email: jamoz2010@gmail.com

同組合、83つの郡レベルの連盟、州レベルでは7つの連盟と4つの支部を擁している。Justiça Ambiental はプロサバナ計画に対する UNAC の反対声明を支持する。

Justiça Ambiental および FOE モザンビークは以下の点において、プロサバナ立案と実施の全ての過程を性急に非難する。

1. 上意下達（トップダウン）式の政策の移入に基づき、公開されている情報は現在に至るまで不完全であり、不明瞭である。
2. 本件は、「持続可能な農業開発」として暗示的に小農や農民組織を主な対象としているように思われるが、共同体の移住と土地の収奪が予測される。
3. ブラジル人農場経営者らの参入は、モザンビーク人農民を安価な労働力になり下がることを余儀なくする。
4. 休耕地という土地利用の在り方に基づき、実際には利用可能な状態になり数百万ヘクタールもの土地を必要としている。
5. 本件の立案と実施によって農民が受けられる恩恵は不明瞭である。
6. 本件は、概して農民と地域社会の土地の接収を加速させる形で構想されている。
7. 土地所有を危険に晒す状況を引き起こし、「土地利用に関する権利（Direito de Uso e Aproveitamento de Terra, DUAT）」に示された農民の諸権利を脅かすものである。
8. 大規模な利害が絡み、汚職と利害対立を悪化を加速させる。
9. その生活を全面的に農業生産に委ねている多くの現地の共同体の不安定な生活条件を悪化させるものである。これらの共同体は、耕作すべき土地なくしては、生存のための代替手段もなく、その結果、本件は大規模な農村人口の流出を引き起こす可能性がある。
10. 本件は、高度な機械化と、化学肥料や殺虫剤といった化学製品の過剰な使用が見込まれ、土壌と水質の汚染が予測される。
11. **Embrapa** が **Monsanto** との関係が予測されるにもかかわらず、遺伝子組み換え作物の使用の如何については決定的に透明性を欠いている。

我々は、モザンビーク国家が、モザンビーク共和国憲法第11条に明記された合意に基づき、その主権を全うし、国民の利益の擁護のために主導的役割を果たすことを要求する。

さらに、我々は、モザンビーク政府が、モザンビーク国民とりわけプロサバナに最も影響を受け、かつモザンビーク国民の大半を占める農民の希望、憂慮、そして必要性を考慮し、プロサバナの評価を見直すことを求める。既に提案された文脈において、プロサバナは、食料に対する主権、土地や水資源へのアクセス、そして数百万世帯のモザンビーク人の社会構造を危機に曝し、国民の未来を破壊するものである。

2013年1月 マプトにおいて

**Justiça Ambiental**

Rua de Marconi Nº 110, 1º andar- Maputo

Telfax. (+258) 21496668; Cell: 84 7151300 / 82 3061275; Email: jamoz2010@gmail.com